

音響合成

シンセシス

日本電子音楽協会の2025年度定期演奏会は、「音響合成=シンセシス」を主体とする音楽に焦点をあてました。

「音響合成=シンセシス」は1950年代にすでに音楽界に衝撃を与えた技術です。ドイツの作曲家・音楽学者ヘルベルト・アイメルトは、音に関して部分的に要素を加減しグループ分けする電子的操作に興奮を覚え、エンベロープの助けを借りて無限の音楽的な方法で利用できる装置に未来を確信しました。アナログシンセサイザー全盛時代にも、デジタルへと移行した1980年代にも、音響合成は電子音楽の中心にありました。そして現在もまた、モジュラーシンセをはじめ、手で触ってサウンドを作っていく音響合成が広く人気を博しています。

装置としてのシンセサイザー、PC内でプログラムされる音響合成、レトロなマシンの復活・転換など、幅広い意味で「音響合成=シンセシス」を主軸とする、公募により集まったJSEM会員の作品を紹介します。

日本電子音楽協会（JSEM）

1953年にドイツ・ケルンの放送局において音楽史上初めての電子音楽が公開されてからすでに70年以上が経過しました。その間に「電子音楽」という言葉は電子技術を用いた音楽／作曲のまったく新しい領域を夢見た当時の歴史的な作品や理念を示す用語として使われるようになり、現在それらは、コンピュータ音楽、エレクトロ・アコースティック・ミュージック、さらにはメディア・アートにおける一領域としてのデジタル・ミュージックと呼ばれるようになっていきます。日本電子音楽協会は、電子音楽が生まれた当時の夢を21世紀の音楽芸術における新しい可能性へと広げるべく1992年に設立され、以来、作曲家、研究者、技術者らが集い、世界的視野に立った活動を行ってきました。日本電子音楽協会は、様々な専門分野の交流を通して、日々刷新されるテクノロジーと音楽／芸術の新しい関係を私達の社会に提案していく場として活動を続けています。

ミニシンポジウム

電子音楽におけるアーカイブの方法論 - JSEMアーカイブの研究報告 -

登壇者：水野みか子、渡辺愛、鈴木悦久

*演奏会のチケットをお持ちの方はご入場いただけます
本研究はJSPS科研費 JP22K00219の助成を受けたものです



伊地知 昂大 Kodai Ijichi

2000年愛知県出身。名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科修士課程修了。メディア表現、特に電子音響音楽、20世紀以降の音楽表現の研究、作曲、演奏を専門にする。作曲、演奏パフォーマンス、舞台音響を鈴木悦久らに師事。現在は浜松市内のアーツカウンシル業務に携わりながら、音楽における時間軸構造を主題に研究、制作活動を行っている。ソウル国際コンピューター音楽祭2025出演。JSSA音楽祭2024作品公募入選。



佐藤 亜矢子 Ayako Sato

作曲家、アーティスト。主に電子音響音楽の領域で国内外にて活動。旅先や日常で出会う雑音・生活の音・物音などの録音物を素材とし、環境や場所の記憶を辿りつつ上書きするような作品を制作。ICMC、SMC、NYCEMFなどの国際学会・音楽祭で作品上演。2019年東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。リュック・フェラーリの作品研究で博士（学術）。現在、静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科講師。



© Satoshi Fukushima

鈴木 悦久 Yoshihisa Suzuki

1975年生まれ。昭和音楽大学で打楽器を、IAMASで作曲を学ぶ。1998年以降、演奏・作曲・メディアアートを統合した芸術実践を展開している。Mimiz名義でアルスエレクトロニカ2006デジタルミュージック部門ホノラリーメンションを受賞。近年は演奏動作解析を通じて身体性のパフォーマンスを探究している。現在、名古屋学芸大学准教授。先端芸術音楽創作学会（JSSA）会長、日本電子音楽協会（JSEM）理事。



林 恭平 Kyohei Hayashi

電子音響／映像作家。1984年福井県で生まれ兵庫県三田市で育つ。大阪芸術大学大学院修士課程にて、セツ矢博資、宇都宮泰、上原和夫、石上和也、檜垣智也に師事する。芥川龍之介の提唱する「話らしい話のない小説」を電子音、具体音によって表現した文学性に富む電子音響音楽作品は、国内外で上演され高い評価を得ている。



水沼 慎一郎 Shinichiro Mizunuma

新潟大学、スコラ・カントルム（パリ）卒業。スコラにて和声のディプロマ取得。トヨタ自動車、一条工務店等、CM音楽作成。CCMC2018（日本）、CCA2020（日・仏・台）「Toccata I・III」入選。「Radio Sakamoto」にてピアノアルバム「ふわり」の好評を得る。Youtubeにて作品を発表中。作曲を清水研作、ナルシス・ボネ、パトリス・ショルティエノの各氏に師事。



安野 太郎 Taro Yasuno

作曲家。1979年東京都生まれ、愛知県在住。テクノロジーと社会、人間の関係を背景に、音楽を価値基準から転倒させる実践を展開。代表作に自作自動演奏機械による「ゾンビ音楽」シリーズがあり、『大霊廟IV 音楽崩壊』（2023年、愛知県芸術劇場）が第23回佐治敬三賞を受賞。2019年にはヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表作家。現在、愛知県立芸術大学准教授として「音楽ってそもそも何だ?」を問い直している。



吉田 卓矢 Takuya Yoshida

福島県出身。東京学芸大学教育学研究科音楽教育専攻音楽コース修了。これまでに作曲を嶋津武仁、山内雅弘の両氏に、指揮法を本田優之氏に師事。専門は現代音楽と電子音響音楽の作曲で、生楽器と電子楽器のアンサンブルに特に関心を持っている。日本電子音楽協会、先端芸術音楽創作学会会員。



渡邊 裕美 Hiromi Watanabe

静岡県生まれ。東京藝術大学大学院音楽学専攻修士課程修了後、渡仏し、ジャン・モネ大学サン＝ティエンヌ校にてコンピュータ音楽専門職修士課程を修了。繊細な色彩の移ろいが生み出す仮想的音響空間を追求し、創作活動を行う。主な受賞にMusica Nova 2017 ミクスト音楽部門第1位、CCMC 2011 ACSM116賞がある。NYCEMF、ICMCなどでも作品が入選。現在、名古屋市立大学非常勤講師。



© Masaya Kato

バロック・フルート
永野 侑実 Remi Nagano

愛知県芸術劇場 小ホール

461-8525 名古屋市中区東桜一丁目13番2号 地下1階
TEL 052-971-5511（代表）

公共交通機関をご利用の場合

地下鉄：東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩3分

名古屋鉄道：瀬戸線「栄町」駅下車、徒歩2分

*オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由

お車をご利用の場合

名古屋高速都心環状線「東新町」出口から3分

